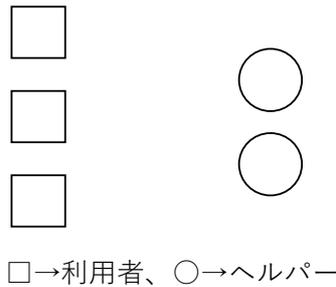


○請求時間の算定について

【支援時】

報酬はヘルパーと利用者の人数比によって変わります。ヘルパー1人あたりの利用者数に応じて算定コードを選択してください。

(例) ヘルパー2人で利用者3人を支援する場合



報酬は…

3人(利用者数) ÷ 2人(ヘルパー数) = 1.5人(ヘルパー1人あたりの利用者数)  
ヘルパー1人あたりの利用者数は1.5人となるため、1.6人以下のコードを使います。

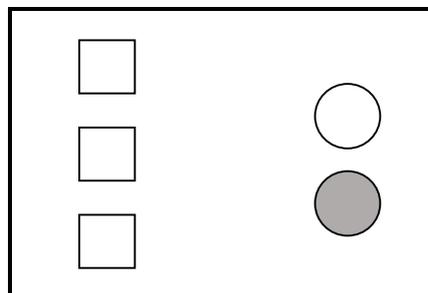
【送迎時】

通常の個別支援型では、ヘルパーの運転時間中は支援を行っていないため、算定時間から除外しますが、グループ支援型に限り、運転をしていないヘルパーが車内にて支援を行った場合、送迎時間も算定が可能です。ただし、車に乗っているだけなど、支援を行っていない場合は算定できません。

送迎時間中のサービスを算定する場合は、車内における人数比を再計算してください。

(例) ヘルパー2人(1人は運転)で利用者3人を支援する場合

車内



□→利用者、○→ヘルパー、●→ヘルパー(運転中)

報酬は…

3人(利用者数) ÷ 1人(ヘルパー数) = 3人(ヘルパー1人あたりの利用者数)  
ヘルパー1人あたりの利用者数は3人となるため、3人以下のコードを使います。

【算定時間の考え方（ガイドライン Q9 補足）】

グループ支援型の場合、個別支援型を一体的に利用する場合や、送迎時間中も支援を行う場合など、さまざまな利用状況が想定されます。そこで、支援時間の算定を行うにあたって、以下の通り算定基準を定めますのでご確認ください。

<個別支援型、グループ支援型、送迎が連続で発生した場合>

（例）個別支援型 45 分、グループ支援型 1 時間 20 分、送迎時間 45 分

上記のケースの場合、従来の算定方法で各類型を見ていくと、実際のサービス時間よりも 0.5H 多く算定してしまいます。（図①）

（図①）		（端数）		（請求単位）
個別型	45分	(15分)	⇒	1時間00分 (1.0H)
グループ型	1時間20分	(20分)	⇒	1時間30分 (1.5H)
送迎時間	45分	(15分)	⇒	1時間00分 (1.0H)
計	2時間50分		⇒	3時間30分
	(3.0H)			(3.5H)

そのため、各類型によるサービスが連続し、それぞれに端数が発生した場合は、請求時間数が実際のサービス提供時間と一致するよう以下のルールに基づいて調整します。（図②）

- ・ 30分単位ごとの端数の時間が多いものを切り上げ、少ないものを切り下げる。
- ・ 30分単位ごとの端数の時間が同じ場合は、「グループ支援型>個別支援型>送迎時間」の順に切り上げる。

（図②）		（端数）		（請求単位）
個別型	45分	(15分)	⇒	1時間 (1.0H)
グループ型	1時間20分	(20分)	⇒	1時間30分 (1.5H)
送迎時間	45分	(15分)	⇒	30分 (0.5H)
計	2時間50分		⇒	3時間00分
	(3.0H)			(3.0H)

図②の場合、一番端数の多いグループ支援型が優先的に切り上げられます。また、個別支援型と送迎時間でそれぞれ15分ずつ端数が発生しているため、「グループ支援型>個別支援型>送迎時間」の優先順位から、個別支援型1.0H（切り上げ）、送迎時間0.5H（切り下げ）となります。